

自治共ニュース

No.514

2021年(令和3年)
1月号

Contents

- ▷ 自治体病院共済会より新年のご挨拶
- ▷ 保険部より
- ▷ 医療事故防止のために
- ▷ 試練の時代の自治体病院経営
- ▷ 病院建設支援業務のご案内
- ▷ 医事トピックス
- ▷ 随想コーナー

迎春

今月の
巻頭言

令和3年の新春を迎えて

(株)自治体病院共済会 代表取締役社長 大濱 紘三



新しい年が明け、皆様におかれましては心新たに力強い一歩を踏み出されたことと思います。

昨年初頭から世界的に感染拡大した新型コロナウイルスは、多くの人命を奪い社会経済活動に甚大な被害を与え、東京五輪も一年延期となりました。幸いにし

てわが国の感染者数や死者数は欧米諸国に比して少なく、その要因として国民の自制力、マスク着用や手洗い習慣などが指摘されています。今回のパンデミックは、地球環境を破壊し多様な生物の存在を危機に陥れてきた現代文明に対する自然からの警告、とみなす見方があります。人類は誕生以来ウイルスとは共存関係にあり、人のDNAにはウイルス由来のDNAが多く組み込まれています。人に感染性のある未確認のウイルスは85万種に及び、その他にも病原性微生物は無数にあり、私たちが現状の社会活動を続ける限り将来新興感染症とし

て人類を襲う可能性は十分あります。

わが国では昨年9月に菅政権が、米国では本年1月にバイデン政権が誕生し、日米両首脳の時交代は新時代を拓く絶好の機会になると期待されています。そのためには従来の諸政策や直面する諸課題を徹底的に検証・分析し、その上で未来社会を構想することが望まれます。デジタル化やグローバル化が進む中で社会的分断や格差を縮小し、自然と共存する人間性尊重の社会を真剣に考える必要があります。

今回の新型コロナ感染症は、生命と生活を守る医療の面でも多くの問題点を炙り出しました。高齢化社会に伴う疾病構造の変化や医療の高度化・細分化が進む中で、現在の診療科体制や人材配置、医療財源では十分な対応はできず、速やかな是正が求められています。自治体病院もこれまでの実績を真摯に検証して自己改革を図る必要があります。

本年創立50周年を迎える自治体病院共済会は、今後も自治体病院および職員の皆様を支援して参ります。